

編集後記：ニューノーマルの時代が突然やってきました。人によって違いはあるかと思いますが、1年半前と比べると日常生活が大きく変わった方が多いのではないのでしょうか。新しい常態（ノーマル）では、仕事はテレワークとオンライン会議でということが急増しました。政府は5年以上前から働き方改革としてテレワークの普及を推進していましたが、日本ではその実現には長い年月が必要と考えられていました。まさかのコロナ禍があつという間に社会を変えてしまった訳ですが、アフターコロナの時代になっても昔の常態に戻ることはないような気がします。プライベートにおいてもコロナ禍ではソーシャルディスタンスや会食の自粛が求められ、学会においても大会や懇親会をリアル開催することができない状況が続いています。でもコロナ禍が終息した後、飲み会だけは昔の常態に戻って欲しいと切に願っています。オン飲みも何度か体験しましたがヴァーチャル空間の相手と飲むお酒はあまり美味しくありません。

コロナ禍以前には夜10時まで職場にいたり月2回以上も出張したりすることが珍しくなかった私ですが、昨年度の出張は2回だけで、実際に出勤したのも平均すると週1日程度でした。自宅テレワークの日は片道

1時間の通勤時間が浮くので、散歩に行ったりチェロを弾いたり料理したりという楽しい時間を持つことができるようになりました。一方、通勤電車に乗る機会が減ったので定期的な読書の時間を持てなくなってしまいました。面白い本を読んでいると時間の経過が分からなくなるので、通勤電車に乗る限られた時間は読書にはベストだったのです。私は1年以上前に電子書籍に移行したので今は文庫本や雑誌を持つことはほとんどありません。そういえば「天気」冊子も職場に配送してもらっているの、直接ページをめくる機会がほとんどなくなりました。ご存じの通り、最新版の「天気」の統合PDFは学会員専用サイトで毎月公開されています。学会の経費削減のためにも「天気」冊子体の配布が不要な方は連絡して欲しいということですが、30年以上前から所蔵を続けて自分も編集に関わってきた雑誌は手元に残しておきたいという古い習慣が捨てられませんでした。しかし、この拙文が掲載された号を最後に冊子集めは諦めようと考えています。持続可能な社会への貢献につながることもニューノーマル時代に求められることだと思ふことにします。

(佐藤晋介)